



むさし台

令和4年11月30日

No. 9

府中市立武蔵台小学校

校長 南條 吉男



<http://www.fuchu11s.fuchu-tokyo.ed.jp/>

「冬至」～1年で一番夜が長く昼が短い日～

校長 南條 吉男

今年も残り1か月となりました。京都の清水寺で巨大な紙に書かれ、発表される「今年の漢字」は年末の風物詩となりました。発表日の12月12日が「漢字の日」であるのは「いい字一字」という語呂合わせになるからだそうです。去年は「金」という漢字が選ばれました。東京オリンピック・パラリンピックでの日本人選手の活躍や各界で打ち立てられた「金」字塔がひととき輝くニュースとなったことなどが理由でした。今年は果たしてどんな漢字が選ばれるのでしょうか。

12月22日は「冬至」になります。冬至の日は、1年で一番夜が長く昼が短い日で、6月の夏至とは対になります。この日以降は、再び昼が長くなっていくので、冬至を1年の変わり目として、新しい生活と活動を準備する時だという普遍的な考えがあり、昔から世界各地で様々な行事が行われてきました。

キリスト教のクリスマスも、もとは冬至の祝祭に由来しており、太陽の誕生日とみなされていたこの日をキリストの誕生日に移したものとされています。日本でも、冬至は太陰暦の二十四節気の一つで、昔からいろいろなならわしがあります。地方によっては、冬至の夜に弘法大使が村を巡るという伝承があります。また、この日は労働してはいけない、静かに家を閉めて、出歩かずにいることがよいともされました。食べ物は「と」がつくものがよいとされ、とうふ、ふきのとう、とうがらし、とうなす（カボチャ）などを食べます。これは、冬至の「と」の字にかけたものですが、なぜか、カボチャだけが有名になっています。これらのものを食べたり、この日にゆず湯に入ったりして悪い魂を流すと言われています。

今年も残すところわずかとなりましたが、今冬においては、新型コロナウイルス感染症が、今夏を上回る感染拡大が生じる可能性があることに加えて、季節性インフルエンザとの同時流行の可能性もあります。子供たちや保護者の皆様には、健康に留意して一年を終えてもらいたいと思います。各ご家庭での健康管理等をよろしくお願いいたします。

《十二月の詩》

『はちみつのかげ』

「くまきょうこ」

とうみんしゅうき

わたしは しんしん

ゆめをみる

ふところに

はちみついろの

つぼだいて

あまい おかしを

つくつくる ゆめ

出典のはらうた

作 工藤 直子